

令和4年度第6回社会教育委員の会議 議事録

令和4年度第6回清瀬市社会教育委員の会議が令和5年2月27日に開催された。出席委員、議事の概要は次のとおり。

日 時 令和5年2月27日（月）午前10時00分～12時00分

開催場所 清瀬市役所3階 会議室3-2（対面開催、オンライン出席者有）

出席委員（対面参加）

高井正議長、齊藤しのぶ副議長、西田由美子委員、玉置昌也委員、
永嶋昌樹委員、相蘇好委員

（オンライン参加）

松山鮎子委員

事務局 峰岸義治（生涯学習係長）、若林幹輝（生涯学習係主事）

次第1 開会

高井議長：第6回社会教育委員の会議の開会を宣言。

事務局：開催方法の確認（対面開催・松山委員はオンラインで参加）

資料の確認

文化協会会長、副会長に出席していただいていること説明

（事務局）

議事進行について高井議長にお願いします。

（高井議長）

第6回会議を始めたいと思います。本日最初に文化協会、文化祭の今後について、意見交換の前に会長、副会長より実際の状況についてご説明をいただき、その後その内容を含めて意見交換をできたらと思います。次にもう一つのテーマとして清瀬市民の生涯学習活動の支援について、今までも議論をしてきたが、もう少し具体的なイメージができるよう私のほうで具体例を少し用意してきましたので、見ていただけたらと思います。

次第2 意見交換

(1) 清瀬市文化協会及び文化祭の今後の方向性について

(高井議長)

それでは本日は文化協会の方々にお越しいただいているため、事務局よりお二人のご紹介をお願いします。

(事務局)

令和3年度から文化協会会長を務められている西澤会長です。ご自身も文化協会の加盟団体である「木彫 紫陽会」に在籍されており、個人では海外にも出展されるなど、精力的に活動されております。同じく令和3年度から文化協会副会長を務められている渋谷副会長です。ご自身も文化協会の加盟団体の「清瀬フォトクラブ」に在籍されており、精力的に活動されております。

事務局からの紹介は以上です。

(高井議長)

本日は社会教育委員の会議に文化協会の会長・副会長にお越しいただきました。お忙しい中お越しいただきありがとうございます。

本日の会議は、堅くならずぎっくばらんに気軽に意見交換ができればと思っております。文化協会を運営されているうえで感じられている現状や課題、困りごとなどについてご説明いただけないでしょうか。

(西澤会長)

簡単に文化協会を紹介します。60年近く活動をしており、もっと以前から文化連盟として集まりはあったが、趣味や文化も多様となり、少しずつ形を変えての今であります。盛況だった時期もあったが、高齢になられた方が多く、最近では役員になること自体が押し付け合いのような形となっております。会長の任期は2年ということになっておりますが、私は今回2度目の会長であります。文化協会には何かしらの団体の長をされている方、ご活躍をされている方といった人材もたくさんいらっしゃいますが、お忙しいため、なかなか役員になっていただけないというのがここ10年の悩みであります。若い方を会員として招きたいという思いはありますが、今の若い方はとても忙しいため、役員になる、趣味を持つということがだんだん難しい状況になっていると思います。文化協会の役員で2日間の文化祭を運営するわけではありますが、役員も高齢になってきているため、運営をするにあたり難しい問題も生じてきております。ずっと前は市の方が中心で文化祭を行っていた時代もあったため、今は事業を市に返したいという思いもあります。

会社を辞められて、趣味の活動をしていく中で仲間ができていき、発表の場として文化祭があるということは、生きがい、生涯学習の延長線上にあるものだと思っております。

(高井議長)

文化祭について、運営する皆さん自身が高齢化してきており、運営も大変になってきていること、また文化協会の運営そのものについて、役員になってくださる方のなり手も厳しい状況になってきているという状況であるということですね。

渋谷副会長からはいかがでしょうか。

(渋谷副会長)

若い人達に入ってきていただくということがうまく実現していないことから、会員の高齢化が進んできております。若い人達が入ってきて役員も含めて世代が変わってくるものがあればうまく流れていくと思います。今年は清瀬高校の生徒たちに舞台部門で参加していただき、今までになく盛り上がりました。そういう人たちが中心となっていければよいのですが、現状はそうはいいっておりません。

また、一般の方々からは文化祭に参加する際に参加費をお支払いいただいているが、運営に関わることはありません。運営の負担は大きいですから、そのためこれまで運営側として携わってくれていた方が運営側から離れて、参加費を支払う一般参加のほうへ行ってしまうということもあり、会議の運営自体が厳しくなっていくということも懸念としてあります。

(高井議長)

日頃の会議の運営そのものと、文化祭の運営をどうしていくかということで様々な意見が出てくると思います。こうしたことを踏まえて、意見交換を行いたいです。

文化協会には何十団体とサークル、団体等が所属されているわけですが、そちらのほうも高齢化が進んでいるということで、サークルや加盟団体の中には活動が厳しくなってきているところもあるのでしょうか。

(西澤会長)

はい、高齢化が進んでいることから重い荷物が持てなくなられたとか、先生がいなくなられたとか、そういうことで文化祭に出なくなられた団体、それに伴い活動そのものをお辞めになられた団体も多くあります。

(高井議長)

文化祭には踊りのグループが数多く参加されておりましたが、そういう団体、サーク

ルというものは先生自身が主宰をしているということだろうか。

(西澤会長)

そうです。そうした踊りのグループは何派、何派、というように幾つかのグループがあるのですが、そうした様々なグループが友の会という形で集まっております。

(高井議長)

そうした方々にとって、1年間練習してきた成果を見ていただくということで文化祭というものはとても大事なものでありますよね。

そのような踊りの団体というものは、地域の中でこれまで継続して活動をされているわけですよね。

(西澤会長)

そうです。大きな劇等に出ていらっしゃる先生もいらっしゃいますし、また地域としては清瀬には盆踊りや夏祭りがありますが、それに伴い踊りを教えてくださるというようなこともあります。

(高井議長)

地域の文化、それを通してつながりが生まれているということでもありますね。

踊りをやりたいという方々が先生をお呼びしてという形ではなく、先生が主宰をしてという形が多いのでしょうか。

(西澤会長)

それに近いです。活動場所は市の施設であることもあります。

(齊藤副議長)

副議長の齊藤しのぶと申します。役員のみならずについてですが、恐らくどのような団体も役員、会長、副会長をはじめ、中心となるメンバーに手を挙げてくださる方々というものはなかなかいらっしゃらないことだと思います。私が所属をしておりましたPTAでもなかなか役員のみならずというものがありません。役員を削減するといった工夫などをして、少しでも役員が負担が減らせるようにということで取り組んでおりますが、そのあたりは文化協会の役員の方々の役割、仕事の内容というものはいかがでしょうか。

(西澤会長)

文化協会としましても役員会などはかなり少なくしております。高齢化が進んでいる

ことから、夜に集まるということがとても困難になってきております。以前と比べますと、会議の回数は半分近く減っていると思います。これまでは様々なことを話し合ってきておりましたが、近年は文化祭をやるのか、やらないのか、それに向けての役員会が多いです。しかしながら会長、副会長となると資料を作ること、文化祭のプログラムを作成することなど仕事は多くなります。それはとても大変です。

(渋谷副会長)

会場の確保、割り振り、舞台の順番をどうするのかということを調整しております。

(齊藤副議長)

ありがとうございます。文化協会の文化祭につきまして、当日の運営などあるかと思いますが、先ほど運営する皆さん自身が高齢化してきており、運営も大変になってきているというお話がありましたが、そういったことは会場の関係者の方々にお手伝いいただいているということはあるのでしょうか。

(西澤会長)

会員増強費をお支払いすることで、できる限り負担を少なくして運営をしようとは考えておりますが、例えば辞められた団体の中で大正琴というものがありますが、大正琴を持ち運び、舞台へセッティングするということがとても難しい。それを弾かれる方もお年寄りであり、運ぶことをお願いすることにも経費がかかってしまうことから結局お辞めになられたといったことがありました。

また展示につきまして、展示パネルが必要になりますが、そうしたパネルもとても重いため業者へ依頼をしております。

(高井議長)

文化協会としての活動の中心は文化祭の開催ということで捉えてよろしいのでしょうか。

(西澤会長)

はい。これまでは個々の団体で老人ホームなどへ伺わせていただくということもありましたが、コロナ禍の影響もありそうした機会もなくなりました。一度辞められたものを、再び始めるということは難しく、現在は文化祭のみであります。

(高井議長)

文化祭の時期になりますと、役員会など会議、打ち合わせの回数は多くなるのでしょうか。

(西澤会長)

できる限り少なくしようとはしておりますが、プログラムを作る段階で変更点や誤りがあった際には、団体に何度も来ていただくということになり、その都度役員も行かなくてはならないということになります。

(高井議長)

駅からの通路にもたくさん旗が立っておりますが、そうしたことにつきましても役員の皆様が設置されているということでしょうか。

(西澤会長)

そうです。

(永嶋委員)

永嶋と申します。文化協会だけでなく、おそらく様々なボランティア団体や活動において人手が足りないという問題が出ていると思います。私自身関わっている幾つかの団体においても、後継者がいないということ、役員になる人がいないということは随分これまで経験してきましたので、文化協会は本当に深刻な現状なのではと思います。文化協会ができてからの60年間で社会の状況も大きく変わってきております。設立当初とは状況が大きく違うと思います。様々なものの考え方も変わってきております。そうした中で活動を続けていくということはなかなか難しくなっているというように思います。これまで通りにやっていくということではなく、これからどのようにしていったらよいのかということについて、文化協会の皆様だけでなく例えば我々社会教育委員、また市全体の話であるというように考えさせられました。ありがとうございました。

(高井議長)

ここで議論していることは決して清瀬の文化協会のことだけではなく、世の中全体で抱えている課題であり、清瀬の文化全体、また清瀬でこれから生きていく子どもたちにとっても大事なことに繋がっていく可能性があります。

(相蘇委員)

齊藤副議長からPTAの話がありましたが、私自身学校現場で働いている中で、どのようなことに関しましてですが、現在若い人の数、仕事をする人の数が減っていることもあり、どの職業の方々も人手不足と言います。教員が足りない、ボランティアなどで来てくれる人などはいない、そういう状況が続いております。PTAの役員を決めるということも本当に大変です。最近では、任意団体なのでPTAに加入しませんという方も出

てきている状況です。そうしたことから、根本的な部分で発想を変えていく必要があり、清瀬で文化振興をするにあたり、文化祭という形でよいのか、そうでない形がよいのかということも含めて考えていかななくてはいけないというように感じております。ありがとうございました。

(西澤会長)

我々、文化協会の文化祭というものは求められているのか、運営側がやりたいと思っているだけではないのかということについて、文化協会の活動の継続も併せてアンケートを取ったことがあります。そうしますと、文化協会、文化祭、どちらも参加したいという答えが返ってきました。しかしながら役員にはなりたくないということです。

そうした状況の中、どうしたら続けることができるのかということが分からなくなっております。いつかまた盛り上がりが来るまでの停滞期をどうにかやり過ごすという状況でもよいのだろうか。60年続いてきましたが、そろそろ辞めたほうが良いのではないかとということも会員にお話しをしましたが、続けてほしいという意見をいただいたため、それであれば続けようかと思っているところであります。

(高井議長)

文化協会、文化祭を大切に思っている方がいらっしゃるわけですね。そうした意見を聞くと辞めてはいけないと。そのように大切に思っていられ方がきっと文化協会の会員の中に沢山いらっしゃる可能性もあるわけですね。一方で相蘇委員からありました現状が直面する懸念事項もありますよね。

(西澤会長)

運営経費につきましても、補助金も減ってきておりますから、節約をしてなるべく出費が出ないようにと考えてやっております。

(松山委員)

文化協会に限らず、どの組織、どの市民活動に関しましても、重い役割を担いたいという人がいないという状況になっているということは、ある意味仕方がないということから出発しないといけないというように考えております。

また、文化協会、文化活動といったものは、始まった当初はそれをやるのが社会的にも意味があり、清瀬の地域としても意味がある活動として生まれてきたと思います。

しかしながら現状、公的な枠組みでやっていくことにどれほどの意義があるのでしょうかと問われた際、どうお答えになられるのかということを感じております。どうして行政が一部支援をする形で行うのかと問われた際、自分たちが楽しいから、清瀬の文化のためになっているから、では清瀬の文化のためになるということはどういうことでは

ようか。財源が少なくなっていく中、何のためにそれをやるのかということをお問わないといけません。社会のため、或いは次世代、子どもたちのため、今の社会にある何かしらの課題その解決のために意味のある活動でありますという部分がないと、昔から続いているからといってこれからあり続けることが当たり前とはいえないのではないのでしょうか。

限られた予算、限られた財源をどう使っていくのかといった際、本当にしんどい思いをしている人たちのために使うこと、将来社会を担っていく子どもたちのために使うことが大切であり、そのときに文化活動というものがどのように繋がっていくのかということを感じました。潤沢な財源があるのであればよいと思いますが、なかなか厳しいこの現状の中、なぜそれをやるのかをということをしつかりお問わないと、公的な枠組みの中で活動をしていくことの理由付けができないのではないのでしょうか。

(西澤会長)

趣味を持って生きることはとても大切で、楽しいことでもあります。それとともにそこに集っていく人と、交流をもって同じ時間を過ごし、仲間が増えていくということがどれほど自分の人生を豊かにしてくれるのかということが一番の目標であると思っております。文化祭という場所は、様々な趣味があることを紹介、提案することができます。生涯学習という視点で、学習をしていきながら楽しんでもらいたいというのが我々の思いです。

(渋谷副会長)

サークル団体活動、会議など様々ありますが、世代を超えてのコミュニケーションが大切だと思います。生涯学習という中で、趣味の世界を通じて、垣根を超えた様々な方とのコミュニケーションが行われている文化協会は、そうした意味で大切な組織でないかと思っております。

(相蘇委員)

文化協会が行っていること、学校教育がおこなっていること、すべて清瀬のためであると思っております。清瀬のため、皆様様々なことをやられておりますし、文化振興のため、学校教育、社会教育のためということではやられていると思っております。

しかしながら、それらに対して公費を入れるとなった際、幾らどこに入れるのかという割り振りを考える際、公的な枠組みで行うということをお十分考えないといけませんという話だと思います。清瀬として文化振興というものをどう捉えるのか、公的な枠組みで考えた際に、文化を振興していくことをどのように行うのか。趣味を始めようと思うきっかけになる、学び続けようと思うことのおきっかけになること、世代を超えたコミュニケーションが生まれること、そこに文化振興としての意味があるということであり、

そこに例えば学校教育がどのように関わるか、家庭教育がどのように関わるか、若い人と年配の人とコミュニケーションをとるためにどのような授業があればよいのか、どのような催しがあればよいのか。そうしたことをお話しできればよいと思います。

(西澤会長)

昨年から申し上げておりますが、清瀬には幼稚園から高校、大学まで学校があります。そこの方たちに出演していただけないかというお話をしておりました。こないだは高校にお願いをして、高校の先生が来てくださりました。しかしながらとても大変な思いをされて、夜8時頃まで一緒に片付けをお手伝いしてくださりました。学校の吹奏楽を出していただけないかというお話もありますが、楽器を運ぶために保険をかけてとなりますと、かなりの予算が必要となり難しいです。様々な要因がありますが、そうしたことの結果が今の文化祭の状態であります。

(高井議長)

色々なご意見があるところだと思います。清瀬にとって文化を振興することの意味は何でしょうかという根本的な部分もありますし、そこに税金を投入し公的な枠組みで行うという意味についてという問題もあります。文化協会へは若干補助金が出ておりますが、それを出す意味、文化協会の皆さんが文化祭をする意味とは何なのだろうか。このことについて、文化協会の皆様にも詰めて考えていただかなくてはなりませんし、そこに補助金を出していく市としても、どのように文化振興を位置付けたうえで、その方針に基づいて文化協会、文化祭を支援していくのかという明確な意味づけが一方では求められているのだと思います。また、人手不足の中で学校と地域を結ぶような、大きな枠組みでも一つ考えていくということも必要であると考えております。

玉置委員はスポーツをやっている方ですが、文化とスポーツと二つ並んで議論されることはよくありますが、それぞれ担い手のことや、高齢化という部分のことにつきまして、スポーツ分野ではどうでしょうか。

(玉置委員)

清瀬市体育協会に所属しております玉置です。体育協会においても文化協会と同様の状態です。先日新しい試みでスポーツを知ってもらう場として、下宿地域市民センターと体育協会とで協力してスポーツフェスタというものを行わせていただき、武道、新体操といった発表できる競技につきましては発表会を行い、個人スポーツなどにつきましては実際に体験をしていただきスポーツを知ってもらうというイベントを催しました。しかしながら役員、執行部の高齢化が進んでいることから、新しい事業を行うにしてもなかなか進まないという現状もあり、文化協会と同様の状態でないかと思いました。

体育協会には、幾つかの連盟などが加入され、そうした組織が対象となっておりますが、文化協会にもダンス、書道、様々なジャンルがあるかと思いますが、それぞれどのように取りまとめをされているのでしょうか。

(西澤会長)

体育協会とは異なっておりまして、ジャンル別ということではなく、それぞれ活動をしている団体、サークルから役員になられる方が出てきて、文化協会を作っているという状態であります。

(高井議長)

体育協会では、陸上なら陸上連盟、卓球なら卓球連盟といった分野ごとの団体があり、そうした団体が体育協会に加入されているということですね。

文化とスポーツと二つ並んで議論されることはよくありますが、形式としましては随分違っているということですね。

西田委員からはいかがでしょう。

(西田委員)

私は日頃NPOで活動をしておりますが、やはり多世代交流、文化の伝承ということには子どもたち、乳幼児につきましても常に施策に入っているところがございます。先ほど西澤会長からありました、幼稚園、保育園から高校生までといったところにつきまして、実現できる方法がないかということを考えておりました。文化的なことは、生まれたときそのときから入口だとは思いますが、例えば60、65歳と定年を迎えられてからいざ始めてみようというより、やはりそれまでに沢山文化的なことに触れておく必要があると思います。そこにつきましても考えていく必要があるだろうと思いました。

NPOの方では、小さな保育園をやっておりますが、その子どもたちが障害者の方々の施設を訪れて、一緒に手形アートをしたりしております。他の施設でも、学校でも、そうしたことはたくさんされていると思います。そうしたそれぞれの取り組みを繋げていくことができればと思います。

(高井議長)

ありがとうございました。本日の会議で具体的な解決策が出るわけではございませんが、実際に現状の課題やご苦労などをお聞きしながら、基本的なことも含めてお話をしていただき、文化協会の現状への理解を深め、今後の文化協会の方向につきまして考えていければよいと思います。また、清瀬市として文化振興、そして文化祭をどう捉えて意味づけをしていくのかということ、自治体として公のお金を投入する意味も含めて、我々も文化協会も今後考えていかななくてはいけないと思います。その結果として清瀬の

文化全体が高まって振興されていくということに繋がれたらと思います。文化協会の西澤会長、渋谷副会長、ありがとうございました。

(2) 市民の生涯学習活動の支援について

(高井議長)

二つ目の課題として、市民の生涯学習活動の支援についてとなります。以前の会議で清瀬市の核となる生涯学習における事業として出前講座について議論していただいたところですが、講座内容も含めて先に繋がれることを考えていければと思い、私から幾つか他自治体の取り組み例を紹介させていただきます。

高井議長より以下紹介

- ・足立区 あだち学習支援ボランティア「楽学の会」
- ・荒川区 コミュニティカレッジ
- ・千代田区 ちよだ生涯学習カレッジ
- ・草加市 マイステージ（団体、サークル活動検索システム）

(高井議長)

以上私から紹介させていただきました。ご質問、ご感想お願いします。

(玉置委員)

今ご紹介いただいた事業につきまして、受講者の年齢層につきまして教えてください。

(高井議長)

あだち学習支援ボランティア「楽学の会」における、あだち区民大学塾につきまして、高齢者中心となっております。60代、それ以上のご年齢の方が中心となっております。運営されている方につきましても同様であります。

荒川区における、コミュニティカレッジにつきましては、幅広いご年齢の方が参加されており、30代の女性の方々でお店を作りたいということで参加をされている方もおりました。また70代で参加をされている方、車椅子で参加をされている方など、幅広い層の方々が参加をされておりますが、50代程度の方々が最も多い年齢層かと思えます。

千代田区における、ちよだ生涯学習カレッジにつきましても、大学生や千代田区に勤められている会社員の方も参加されており、20代から70代まで幅広い世代の方々が参

加しております。地域性もあるかと思いますが、会社員の方々がかなり多く参加されております。

(玉置委員)

これらの講座などは対面方式とオンライン方式、またどちらも併用であったりとしているそうですね。

(高井議長)

コロナでも止めないようにと、様々な工夫をしながら、対面方式とオンライン方式と併用で開催をしたり、部分的にオンデマンドで配信を行ったりしております。60、70代の女性の参加者の方で、なぜ参加されたのか質問をさせていただきましたところ、コロナ禍でも勉強ができるように、Zoomの使い方を学びたかったからだという方もいらっしゃいました。

(齊藤副議長)

これらの事業は、市民の方々から立ち上がったものであるのか、或いは市の方から呼びかけを行い始まったのか、そうした経緯について教えてください。

(高井議長)

それぞれの詳しい経緯につきましては正確にわかりませんが、例えば江戸川区には、江戸川総合人生大学という事業がありますが、これは区長から、やりたいという思いがあったことから始まりました。大きな事業となってくると、区政の柱にしていきたい、また区政のこれからを担っていける人材が生まれてきてほしいということから、大きな政策の流れから始まったというケースが多いようです。

(松山委員)

文化協会についてのお話にも重なってくるのだと思いますが、今回見せていただいた事例につきまして、学ばれる皆さんにとって、単に学びの場を消費するだけではなく、支援をされるだけではない学びの場となっているのだろうという点が、ご紹介いただいた事例に共通する部分だと思いました。公的な領域で文化活動、学びの活動を支援していくには、何のためにそれを行うのかということをお問う必要があると思います。ただ楽しいだけでなく、その先で社会的な活動に展開していくように、運営、支援する側が意図的に育てる意識をもって行わないと、先細りしていってしまうと感じました。初めから明確な目的をもって参加される方はそこまで多くないと思いますが、活動をしていく中で目的を言語化、意識化していけるようなサポートも同時にされているというイメージを受けました。そうしたことを含めて、支援する側が公的な学習活動の場を、意味づ

けながら行っていく必要があると思いました。

(高井議長)

学園祭などは、関わる人たちにとって、伝えたいことがたくさんあると思います。それをどう伝えたらよいのかということについて、一生懸命考え、企画力をつけていきます。講座の中で学びと活動を結びつけながら、事業終了後の実践活動の展開をイメージしていくことを、職員の方は意識しながら学習支援を行っていると思います。

(相蘇委員)

参加者の年齢層ということについて、自分の年齢も重ねて考えまして、若い頃にやっていたことが歳をとってからもう1回できるとか、子どもと一緒にやったことが、その後の自分の趣味になっていったとか、そうしたことが考えられると思いました。若いうちにやっておく必要があります。定年を迎えられてから何かを始められる方も、勿論いると思いますが、それにはものすごくエネルギーがいります。若いころに、気軽に少しでも参加できるような仕組みがあるとよいと思います。子育て、仕事をしている間にも何か少しきっかけになるようなことが必要なのかなとお話を伺いながら思いました。

(高井議長)

定年を迎えられてから、いざ何かやらなくてはと趣味を始められる方もいらっしゃると思いますが、いろいろとやりすぎて結果何も続かないということもあるかと思えます。定年後のことを、定年になってから考えるのではなく、定年前に何かきっかけとなるようなことがあるとよいのかもしれない。

(永嶋委員)

文化協会の西澤会長が大正琴のお話をされておりましたが、大正琴は、昔はありましたが最近では演奏されている方も見なくなりましたし、聞くことも少なくなりました。子どもたちの世代だと大正琴を聞いたこともないと思います。そうした子どもの頃に経験をしていないことを、歳をとってからやってみようとは思わないですね。子どものうちから何か経験できるようなものが用意されていないと、このまま廃れていくのではないかと思いました。文化の継承ということを考えるのであれば、多世代の話は随分できておりましたが、やはり若い世代が経験できるような、そして面白さ、大切さを伝えていけるようなことを考えていかないと将来につながっていかないのではないかと思いました。

(相蘇委員)

大正琴でなくてもよいですが、何かプログラムがある中から各学校で一つでもやりま

せんかとなり、それを学校がやろうと思った際に教えにきていただけるような体制があればよろしいのでしょうか。子どものうちからそうした文化的活動に触れる機会があるとしたら、それはある意味文化振興に繋がっていくのではないかと思います。

(高井議長)

出前講座にも通ずるかもわかりませんが、ある程度のプログラムがメニューとしてあって、それを使えるような仕組みがあり、その中で文化協会や文化協会で活動している方々に関わっていただくことで、活躍の場でもあり、多世代交流にも繋がり、子どもたちにとっても普段では体験できないような体験ができるといった仕組みを、市も含めた形で何か考えていくことが解決につながりますでしょうか。

(松山委員)

私の祖母が大正琴の先生をやっております、子どものころ、祖母も含めた 50 人程度の大正琴の会へ行ったことがあります。そこで感じたことは、大正琴そのものというより、やっていたらっしゃる方々のエネルギーでした。内容、コンテンツはいろいろありますが、そうした経験というもの子どもたちにとって大変インパクトがあると思います。日常の学校と家との往復では、その地域にどんな大人が住んでいるのかということを知る機会はなかなかないと思います。多世代交流の話にも繋がるとは思います、幾つになっても楽しみながらエネルギーに生きている大人の方々と出会うことができる場として、今回議論になっている出前講座というものがそうした意外な出会いの場所となればよいと思います。文化継承という意味は勿論ありますが、子どもたちが自分自身の将来を想像する一つのきっかけにもなるのではないのでしょうか。一方で、そうした活動をされている大人にとっても意味合い、意義が生まれてくるのではないのでしょうか。

(高井議長)

お年寄りのイメージについて、エネルギーなお年寄りもいるということを知れるだけでも、いろいろな影響があり大切なことだと思います。

今回は市民の生涯学習活動の支援につきまして、他自治体の取り組みもご紹介しながら、意見交換を行わせていただき、文化協会の議論にもつながっていきました。文化の意味、世代を超えてつながることの意味、子どもたちにとっての意味、こうしたことに繋がる議論もできたと思います。また整理をしていかななくてはなりません、清瀬市の生涯学習に何が必要なのかということについて今後も考えていきます。本日の意見交換は以上で終わりたいと思います。

次第3 報告等

(1) 令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会の報告について

(事務局)

令和5年2月14日(火)に開催され、事務局で参加をして参りました。お手元の資料、協議3定期総会議案書(案)において、令和5年度の都市社連協の集会一覧が掲載されております。新年度初めの集まりは令和5年4月15日(土)昭島市にて開催される定期総会となっております。定期総会は委員全員が参加対象となっておりますので、ご出席をよろしくお願いいたします。令和5年度の会長市は調布市、第4ブロックの幹事市は東久留米市です。第2回理事会の報告は以上となります。

(2) 令和5年清瀬市20歳のつどいについて

(事務局)

令和5年1月18日(日)「令和5年清瀬市20歳のつどい」が開催されました。当日は西田委員、松山委員にもお忙しい中お越しいただきお手伝いをしていただきました。報告資料を卓上配布しておりますが、今回清瀬市20歳のつどいがJ:COMにて取り上げられました。報告も兼ねて、映像をご覧ください。

映像上映

(高井議長)

それでは西田委員、参加されてみていかがでしたでしょうか。

(西田委員)

今のビデオに集約されておりましたが、皆様とてもいい笑顔でいらっしゃいました。お話の中でもありましたが、実行委員の方がくじ引きを行い、野菜グッズをプレゼントしておりました。清瀬らしい、と新成人の方々から声上がり盛り上がっておりました。インタビューにもありましたが、みんな清瀬が大好きだということが伝わってきまして、とてもよい会だったと思います。また、室内展示では給食の展示がありましたが、これからも続いていってほしいと思いました。

(高井議長)

松山委員からもお願いします。

(松山委員)

和気あいあいとしたアットホームな雰囲気、とてもよい式でありました。ぜひ今後も、運営に当事者、若い世代の方々が関わって作り上げていくということを、より発展させていってほしいと思いました。

(高井議長)

我々社会教育委員の会議でも、成人式をどう運営していくのかというテーマで関わって参りました。当事者の立場の方々に関わっていただく必要があるということで、初めての実行委員会形式での開催となりました。大変な苦勞もあったかと思いますが、実行委員をはじめ、清瀬について改めて考えられる機会にもなったかと思います。そこから、若い人の参加ということにも繋がっていければ、20歳のつどいも、より意味があるのではないのでしょうか。

それでは、令和4年第6回社会教育委員の会議を閉会します。